

令和 7 年度第 1 回横須賀市市民協働審議会 議事概要

日時：令和 6 年（2025 年）5 月 19 日（月）

14：00～15：55

場所：災害対策本部室

【出席委員】志村委員、手塚委員、石塚委員、小串委員、工藤委員、佐野委員、富野委員、
中島委員、原委員

【欠席委員】岩堀委員、小山委員

【事務局】地域支援部 鶴飼部長、荒井課長、山岸主査、松本主任、加藤主任

【傍聴者】2 名

<配付資料>

名 簿 横須賀市市民協働審議会委員
資料 1 専門部会の設置について
資料 2 令和 7 年度市民協働審議会開催スケジュール（予定）
資料 3 市民協働推進関連事業の概要
資料 4 市民公益活動団体支援広報紙の企画構成について

<議事内容>

1 開 会

会議の成立。（委員 11 名中、9 名出席のため、会議は成立。）
会議資料の確認。

2 委嘱状交付及び委員紹介

委員へ、委嘱状の交付について確認。
委員から氏名、所属等を自己紹介。

3 審議事項

（１）委員長の選任及び委員長職務代理者の指名について

工藤委員より、志村委員をご推薦する提案があり、全委員から志村委員を委員長とすることについて承認された。

志村委員長が、手塚委員を委員長職務代理者として指名した。

（２）専門部会の設置及び専門部会委員の指名について

事務局 （資料 1 を説明）
委員長 専門部会の設置については、事務局案のとおり 2 つの専門部会を設置するとい
うことで進めて良いか。
全委員 （異議なし）

委員長	それでは、個々の専門部会の委員を選任していきたい。市民協働推進条例施行規則では委員長の指名によると定められているが、もし事務局で腹案があれば示していただきたい。
事務局	(「横須賀市市民協働審議会 専門部会 (事務局案)」を配布、説明)
委員長	特段のご意見等がなければ事務局案のとおり指名したいと思うがいかがか。
全委員	(異議なし)

4 事務局説明事項

(1) 令和7年度の市民協働審議会開催スケジュールについて

事務局	(資料2を説明)
委員長	特段のご意見等がなければ事務局案のと通りの開催となるがいかがか。
全委員	(異議なし)

(2) 市民協働推進関連事業について

事務局	(資料3を説明)
委員	資料の最後のページにある市民活動サポートセンター久里浜については、あまり話題になったことがないが、これはどのような施設なのか。また、市民活動サポートセンター運営懇話会というのは事業の概要にも書かれているが、どのような話し合いが行われているのか。
事務局	市民活動サポートセンター運営懇話会については、実は小串委員がこの3月まで座長を務められていた。3か月に1回、年4回、委員10人で集まり、市民活動サポートセンターの利用者数、利用団体数、そして取り組んでいる様々なイベントの報告等を受け、利用者にとってより良い施設となるよう、話し合う場である。
委員長	せっくなので、どんな感じで行っていたのか、座長を務められていた方のお話も聞いてみたいがいかがか。
委員	ご紹介いただいた市民活動サポートセンターの運営懇話会では、サポートセンターでどのような活動をしているのか、また、新規で登録された団体や残念ながら活動を辞めてしまった団体の報告をいただき、なぜそういった事が起こっているのかという背景を議論することもある。活動の打ちきりの背景としてはしばしば、後継者がいないという課題が浮き彫りになるのが印象的である。他にも、委員間の分析により、公共交通機関の減便や終バス時間の繰り上げの影響で、利用の時間帯が短くなってしまったという課題の共有がされるなど、全体的には、サポートセンターの利用を活性化させていくことが、市民活動そのものの活性化に繋がる、というような視点で議論が行われ、意見をいただくことが多かったと感じた。
委員	今までになかなか、市民活動サポートセンター運営懇話会の声を伺うことはなかった。機会があれば、市民協働推進のために議論行う審議会と、市民活動サポートセンター運営懇話会の、合同懇話会のようなものを開催しても良いかと思った。
事務局	また、久里浜サポートセンターは直営となっているが、運営懇話会のなかでは久里浜サポートセンターの事も議論されるのか。 懇話会のなかでは、汐入の市民活動サポートセンターの利用状況説明については指定管理者のYMCAコミュニティサポートが、久里浜のサポートセンターについては直営なので市が利用状況の説明をしている。 久里浜のサポートセンターは、施設としては印刷機、コピー機、裁断機ほか、小さな打合せスペースがある程度で、市民活動の場というよりは、その為の作業やちょっとした打合せをしていただくような場所となっている。

委員長	先ほどの質問の内容としては、その久里浜サポートセンターについて、懇話会で議論されることやあるいは意見を集めるようなことを行っているのか、という趣旨かと思う。
事務局	地域コミュニティ支援課において利用状況等をまとめ、市民活動サポートセンター運営懇話会で報告を行っている。
委員	12 頁の表に予算の概要があり、「別途報酬 136 万 7000 円」とあるが、こちらについて資料上のどこに説明があるのか教えていただきたい。
事務局	こちらの報酬は、審議会開催ごとに委員の皆様にお支払いしている報酬と、志村委員長にご就任いただいている「市民参加型事業研究専門委員」の委員報酬の合計である。

5 協議事項

市民公益活動団体支援広報紙の企画構成について

事務局	(資料 4 を説明)
委員長	今年度から新たに、市民協働に特化した広報紙を発行するというので、その内容や紙面構成などについてご説明を受けた。 前回の審議会で、こちらの企画について初回の概要説明を受け、今回はより具体的な企画の内容についての提案をいただいた。前期から引き続き在籍している委員の方はこの広報紙発行の企画に至るまでの流れなども十分に分かってらっしゃるかと思うが、今期からの委員の方についても、市民活動については造詣の深いところであると思うので、一応そのあたりの説明を受けてからのご質問・ご意見をいただければと思う。メインになると思われるところは、資料中 7 のインタビューで何を引き出すのか、また、8 の制度解説の部分かと思う。この大きな 2 軸に拘らなくとも、幅広くご意見を頂けたらと思う。一方で、資料中 12 の編集スケジュールの関係からすると今回の審議会が意見出しを広くできる最後の機会となるので、漏らさず意見を集めていきたい。
委員	紙面の内容ではなく形式的な部分になる。紙面構成が全 6 ページで 12,000 部ということで、これは紙ベースで発行するものかと思うが、通常は見開き一冊というのは大体 4 の倍数になるのではないかと思います。6 ページというのはどのような構成になるのか。
事務局	まず、ヨコにした A 3 の用紙を真ん中で折り畳み、その中にタテの A 4 用紙を挟んでいくと、ページ数は 6 ページとなる。この、間に挟む A 4 サイズの紙に、主に制度説明を掲載すれば、必要な方はその部分だけ抜き取ることができる。
委員	非常に基本的なところの質問となってしまうかもしれないが、お話だと市民活動サポートセンターに登録している団体は約 800 程度あるとのこと。こちらの紙面発行の企画は 3 年間となっており、年間 2 回で取り上げられる団体数が 24 団体という予定だが、これは非常に少ないのではないかと思います。この広報紙は 3 年継続の後にも更に継続の可能性はあるのか。 また、折角市民に広報するので、広く市民に読まれている広報よこすかと一緒に配布できると良いのではないかと。どういった理由で発行は 9 月と 3 月となっているのか。12,000 部というのはどのような根拠でこの数字なのか。
事務局	まずは 1 点目、継続の可能性についてだが、こちらは 3 年間と期間を設定させていただき、3 年目に効果検証をさせていただきたいと考えている。こちらの審議会でも効果について共有、検証させていただき、効果のありなしによってその後の継続についてもまた皆さんと考えていけたらと考えている。 2 点目、広報よこすかとの連動については、広報よこすかは横須賀市民に幅広く情報をお届けしているもので、ターゲットがとても広いものとなっている。前回の審議会でのご意見をふまえ、ターゲットはしっかり明確にしておき、市

内企業や行政機関、団体等に絞り、あえて、広報よこすかのように幅広く周知することとは違う戦略をとっている。

委員 紙面構成については前回いろいろお話をさせていただいた。

候補団体の選定の部分で、条例指定団体とあるが、条例指定だけでなく認定NPO法人も含めていただいた方が良いかと思う。横須賀市の条例指定をとらずに認定を受けているNPO法人もあるかと思うので、条例指定だけでなく認定NPO法人も入れてはいいか。

事務局 選定内容に入れさせていただく。

委員 昨年度の最後に話がでて、よくここまで企画をまとめていただけたと思う。紙媒体ではあるが、SNSでの発信も予定しているので情報の発信の仕方は重要である。折角プロにインタビューしていただくので、その様子を動画にして一部でも発信するとか、QRコードを読んでもらえれば動画が見られるというような、紙面プラスαの情報に飛べるような形にすると良いと思う。2頁の5、読者ターゲットに地域貢献に関心がある企業とあるが、地域で事業を行っている企業は地域に対する思い入れや愛情がとっても強い。なので、この広報紙が地域の企業にきちんと読んでもらえるものになっていくと、その先に必ず協賛や活動に対する賛同、場所や商品の提供などに繋がってくると思う。また4頁の11にもあるように、マッチングという形で出口戦略まで用意があれば、団体だけでなく企業にとってもメリットがある。団体の選定プロセスについても、正直なところ数ある団体のなかで、きちんと活動している団体というのはかなり絞られてしまうかと思うが、全てがゼロから募集をかけるのではなく、こちらの審議会で審査を行うなどの関わりが過去にあった団体は、ある程度活動を把握できているので、その中から選定するというのは良いかと思う。

3年間、まずはそのようなプロセスのもと発行し、その結果、横須賀の団体であればゼロから選定しても大丈夫、ということになればその時点でまたプロセスについても考えなおすということもできるのではないかな。

企画については、非常によくまとまっていると感じた。

事務局 動画について素晴らしいアイディアをいただけたので、ぜひ、プラスαの発信にも繋がるようにやっていきたい。静止画だけでは伝わらない魅力もあるので、積極的に発信していきたい。

委員 こちらの広報紙は、市民活動サポートセンター登録団体には届くのか。

事務局 届ける予定である。

委員 折角、支援事業の魅力を伝えるので、この広報紙を見て活動してみようと思った人がいるのかどうか、補助金等に応募してくれた団体などを対象に、支援や助成制度を何で知ったのか、アンケートをとってみても良いかもしれない。

事務局 広報紙の効果という部分であるので、効果検証ができるように、後追いやアンケート等の方法を検討していく。

委員 掲載について、市民活動サポートセンターに登録している団体が自ら名乗り出るということはあるのか。

事務局 3頁にある選定プロセスでは、基本的には、審査等で審議会にかかわりのあった団体の中から選定することを想定しているが、それ以外でも、魅力的な団体や活動にスポットをあてるというのがこの広報紙として必要な考えなので、資料「※」のところにあるように、インタビューを希望する団体の募集なども検討していきたいと思う。

委員 市民協働推進補助金に応募してくる団体や、そのように自ら応募してくる団体というのは、実は自ら発信できる団体なのではないかと思う。

市民公益活動を地道に、一生懸命行っているが、なんか目立たなくてもいいな、というような団体をぜひ引き出してあげて欲しい。

市民活動サポートセンターに登録の約800団体にこの広報紙掲載の募集をかけて、その中から手を挙げてくる団体というのは、意外にこの広報紙でインタビ

ューを行い記事を取り上げなくても、自らPRできる団体なのではと思う。
ただ、そう考えてしまうとどのようにして団体を選定すると良いのかが見えてこない。

事務局 おっしゃる通りで、たとえば分母が 800 であれば、各号倍率で言うと 200 倍以上になる。そういったなかで、選定を事務局と市民活動サポートセンターでどのように行っていくのかというのは非常に厳しい部分もあると想定している。このようにやれば良いのでは、というようなご助言があればいただけるとありがたい。

委員 団体選定について、基準になるかどうかはわからないが、今年ののたろんフェアで市民表彰を受けた団体を、もう少し目立つよう発信していけたらという話があり、その中では目立つようにメダルを作るという話もあった。「なんで表彰を受けたのか」というところは団体選定のプロセスのなかで参考になるかもしれない。

事務局 市民表彰における団体選定は、市民活動サポートセンター運営懇話会において行うが、団体の推薦は市民活動サポートセンターが行っている。市民活動サポートセンターは推薦したい団体について懇話会に諮り、それに対し挙がったご意見を受け、市民活動サポートセンターから市へ団体を推薦していただく。非常に沢山の団体の中から選定されているので、そこはぜひ参考にさせていただきたい。

委員長 委員長からの質問になってしまうが、市民表彰は年間に 1 回かと思うが、その中で何団体を推薦しているのか。

事務局 年に 1 度で、市から市民活動サポートセンターへ推薦依頼をしている団体数は 3 団体である。

委員長 市民活動サポートセンターは日々団体と向き合い、近くから活動の様子を見ているので、その視点で選定していただくため、市から推薦を依頼している。ゼロスタートでこの企画についてお話をさせていただくと、団体情報を載せる広報紙というのは市民活動サポートセンターでも当然に発行しており、そのような発信もあるなかで、その媒体との棲み分けについては大変そうだがあって然るべきである。そう考えると、市が発信し、支援事業を紹介するという部分があるというのはとても大事で、市だからこそできることである。

また、団体の選定についてもその棲み分けは大事で、市民活動サポートセンターが推薦してくれた団体を市が発行する広報紙に掲載することについては、発信力の違いなどもあるし、市民活動サポートセンター事務局、活動している団体、合意をしながら進めていくことが重要かと思う。

棲み分けと同時に、そのような合意形成をとりながら上手に団体選定を行うことが大事である。

なんとなく、私の感覚であるが、800 近い団体のなかから、掲載されるのが年間 8 団体というのは勿体ないように感じる。個人的には、もう少し多くの団体を紹介してあげたいという気持ちがある。市の協働事業に絡んだ団体ということで、市民協働推進補助金やよこすか元気ファンド登録団体、モデル事業の団体など含めたら 100~200 くらいあるのではないかな。それだけ調べてもずいぶんあるような気がする反面、なかなか表立ってPRができないけれど地道に活動を行っている団体は確かに存在するかと思う。そういった、例えるなら光と影の影がわというか、地道に頑張っている団体をきちんと紹介してあげられる機会というのは必要だろうと感じている。

そのような意味では、各号にテーマを設けるという話もあったが、「今回はこのような団体にスポットをあてました」と、スポットのあて方を工夫すると良いかもしれない。

また、各号でとりあげる団体数は私の感覚では少ないように感じるが、紙面の関係上あまり増やせないのであれば、それらの分母を示すようなリストがあっても良いのではないかなと思う。市内で公益活動を行う団体がこれだけあって、

その中から、例えば活動内容別や地域別、課題別などで団体を知らせるページを作れば、この地域は福祉の分野で頑張っている団体が多い、など、見え方が変わってくるかと思う。また、市民協働推進補助金の事業を行った後にモデル事業へ移行した団体や、別の方法で自立運営を続けている団体など、後追いにスポットをあてたテーマがあっても良いかもしれない。ただ、それらの団体も含めた全貌が見えるページがあると良いと思う。

事務局 団体選定の方法として、委員のおっしゃる通り立ち上がり間もない団体もいればPR上手で目立つ団体もいて、そこは市としても意識して選定にあたるのが重要だと思っており、偏りなくやっていきたいと考えている。

また、サポセンとの連携や合意形成については、本日の資料には落とし込めていなかったが、きちんと連携し、縦割りにならないように進めていきたいと思っている。

また委員長からいただいたリストという発想、分母は読者からすると気になるころはあるかと思うが、紙面の関係もあるので、例えばだが、お知らせするのであればその詳細はWEBなどで、紙面上ではないお知らせのしかたでも良いか。

委員長 そこについては、無理のない形で構わない。

意見が沢山あるなかで、予算や時間の問題もあるので、その中で何ができるのかを考えていただければと思う。

委員 他市の市民活動の支援施設を運営している経験談からの話をさせていただく。そこでは年に1度市民祭りというのがあり、一般の市民に市民活動やNPOについて知ってもらう目的でリーフレットを作成する。その市で活動しているNPOが200団体くらいあったので、その名前を全部冊子に刷り込んだリーフレットを発行したことがある。名前の羅列だけであるが、それだけでもたいそうな数を載せるとだいぶインパクトがあったようで、発行後は団体についての質問や問合せを結構受けた。また、その他にも団体紹介パンフレットを発行しており、1号につき1団体、年間12団体紹介し、もう3年間発行している。そのパンフレットに掲載する団体選定の基準は、まずはテーマや分野を絞る。たとえば、夏に発行する号は海が関係するような夏っぽい団体、冬に発行する号は少し温かみを感じるような、ほっこりする活動をしている団体を選ぶなど、年間12号で毎回ネタ探しをするのでそれなりに大変ではあった。トピックスを設けたり、季節感や社会の動きからテーマ選定をしていくが、どれくらいのボリュームの中から選定するのか、選ぶ手前にリストが必要になってくるので、しっかりと目通しをしてやってくのが良い。

さきほどの、PR上手な団体とそうでない団体の話だが、そうではない団体については推薦枠を設けるなどすれば、公平性の観点からも良いのではないか。市民活動サポートセンターの紙面でも取り上げている団体、市民表彰される団体、そういったところは割と別からも表彰等を受けるなどし、何らかの媒体で周知されているところもあるので、市民表彰団体をクローズアップする号があっても良いかもしれないが、そうでない号があっても良いと思う。

また、委員長のコラムについて触れられていたが、似顔絵つきの軽く読めるコラムがあったりすると紙面のアクセントになり良いのではないかと思う。例えばだが、委員の皆さんが持ち回りで書いていくというのも1つの案である。

個人的には、団体をひとつでも多く取り上げて欲しいという考えがあり、1紙面に1団体ではなく、半面あたりでどうかというお話もさせていただいたが、インタビューの方がプロで、先ほどのご意見にもあったようにインタビュー中のショート動画がとれるようであれば、自分たちの団体の自慢や広報に使えるので、ぜひ良いものを、お金をかけてしっかり作っていただけると良いなと思う。頑張っていたきたい。

事務局 盛沢山なご意見ありがたい。コラムについても進めていきたいと思う。

委員長 コラムについては、私でも、市長でも良いかと思う。協働や市民公益活動につ

	いてしっかり考えている人がお墨付きの意味を込めて解説を書くというのが大事かと思う。
委員	さきほども少し触れたが、4頁で第1号発行記念イベントとして、取り上げた団体と読者ターゲットが交流できるという場について書かれているが、折角の記念なので、もう少し幅を広げていろんな団体の方が参加できる大交流会的なものにすると、その中でマッチングなども進むかもしれないので、事務局の負担がかからない範囲で検討していただけたらと思う。
事務局	事務局としても、単発にこちんまりと行うよりは、例えば市民活動サポートセンターで行う大きなイベントと併せて行い、より注目していただけるように、交流会を進めていきたいと考えている。
委員長	自分の団体を掲載してほしいという団体は沢山あるかと思う。3頁の(4)団体の選定プロセスのなかで、インタビューを希望する公益団体の募集も検討とあるが、こちら、コンペのようにして自分のグループの活動を例えばだがA4用紙1枚程度にまとめてもらい、それらを並べて選考の参考にし、審査するのはいかがか。紙面への掲載が叶わなかった団体についても、提出された応募用紙を全てWEBに掲載することで、実は活動報告やPRに繋がり、それらを見た別の団体が、掲載された団体の活動を参考にして活動を始めたり広げたり、市民公益活動が連鎖的に広がっていきけると、活動団体全体に活気がでるし励みにもなる。推薦枠についても上手な表現方法が載っていると良いが、始めてみればどんどん勢いがついて広がっていきそうな気がする。そうなってくると、事務局の負担もそれほどないし、インタビューする方も、掲載内容を見て基礎知識を仕入れることができる。下調べの材料にもなるので、自己推薦用紙1枚を団体には作っていただき、それをもとに選考を行ったら楽しいかなと思った。
委員	今回初めて議論に加わったが、市民協働に特化した広報紙の発行というのは非常に良い取り組みだと思う。ただひとつ、12,000部の配布方法というのが個人的には焦点があわないと感じている。 自分たちの団体は、関心を持ち活動に加わってくれる人が少ない。このように後継者問題の意識がある団体にとっては、沢山のの人に知ってもらって、参加して欲しいという希望があるかと思う。そのような観点からは、配布は広く網羅的に行っていくのがベストかと思うが、資料4頁には発行は12,000部で読者ターゲットを意識して配布場所を慎重に選定とある。これは、ある程度配布場所を絞り意識の高い方々に配ってゆく、という配布方法を想定しているのか。
事務局	実は、前回の審議会でも、ターゲットについてはある程度絞る方が良いという意見を受け、配布場所についても、そのターゲットを意識したうえで選定を行う予定でいる。ただ一方で、掲載される団体にとっても幅広くPRを行いたいという希望もあるかと思うので、幅広くお知らせできる配布場所という観点からも柔軟に対応していきたい。
委員	読者ターゲットを意識した配布場所としては、例えばだが市民活動団体のイベントやお祭りなど、そういったところに集まった方々に向けたところかと想像している。そのようなところに出向く方、活動している方はそもそも関心が高い方が多い。また、集まる方も大体毎回同じメンバーである。なので、そういった方々に向けて配布するよりは、本当は広く知らしめて、その先に、後継者や協力してくれるメンバー不足という問題が解決したり、賛助金の獲得に繋がるなどの効果を期待したい。 広報よこすかは広く横須賀市民に読まれているので、同様の配布イメージが理想と思い最初に質問させていただいた。せっかく良い広報紙を発行するのであれば、その目的のひとつとして、市民公益活動をよく知らない方たちに知らしめるというのがあると思うので、それが叶うような工夫はないものか。この資料からはどうも、限定された、活動を行っている身内により一層の協力を求めるとか、そういった方向で動いてしまう気がした。
委員長	確かに、そこは大事なところである。サイレントマジョリティーにどう投げか

けるかは、しっかり考えていくべきである。

事務局 身内だけのための情報紙にならないよう、知らない市民にも届くよう配布先については考えていく。

委員長 今はWEBやSNSの時代で、そもそも紙ベースの伝え方が良いのかという議論もあるかと思う。いろいろな事情、時代情勢がある。
そのあたりもきちんと検討し、本日いただいたアイディアを盛り込んで計画を進めていただきたい。

委員 今日いただいたご意見のなかでは、まだ煮詰まっていない部分もあるので、そこはしっかり考えていただいて、引き続き検討していただけたらと思う。

WEBやSNSの便利さはあるがやはり、広報よこすかは広く市民に読まれているので、当初の私の意見としては、広報よこすかの一部分を少し、市民協働関連で枠をいただき、毎回1団体ずつでも紹介などでできれば一番良いのではないかと意見させていただいた。ただ、広報課や、市の広報紙を発行する方針などとの調整からそれは難しいとのことであった。紙面の関係もあるかと思うが、もし可能であれば、協働の広報紙を発行し、このような場所で配布しているという情報だけでも、広報よこすかに掲載できると良いのかなと思う。
ほんの2行、3行なので、紙面の調整はさほど難しくないかと思う。

事務局 広報よこすかでの関連情報の掲載については、可能な限り働きかけていきたい。

委員長 発行については、マスコミへの投げかけも行っても良いと思う。QRコードひとつで沢山の情報へ繋がるが、そういった形で多数使うと広報紙そのものがQRコードだらけになってしまうので難しいところもあるかと思う。
いろいろな情報を掲載しなくてはという実情は皆さんよくわかっていらっしゃると思うので、ぜひ良いアイディアをいただけたらと思う。
いただいたご意見を踏まえ、引き続きしっかり事務局において検討していただく。

6 その他

事務局から現在日程の確定している、次回の審議会の開催予定に関する事務連絡。

7 閉 会